

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		平成29年度 第1回川西市介護保険運営協議会		
事務局(担当課)		健康福祉部 長寿・介護保険課		
開催日時		平成29年5月31日(水)15:00~16:00		
開催場所		川西市役所 2階 202会議室		
出席者	委員	大塚保信、小田兼三、藤末洋、坂井稔、田中公宏、南智子、喜田和代、三浦光子、野村貴美子、荻本文人、細見幸己、雪岡健次、佃義廣		
	その他			
	事務局	根津倫哉、山本敏行、井口俊也、田中英之、今井ひでみ、野本修平、阪上翔太		
傍聴の可否		可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1. 開会 2. 報告事項 「川西市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画アンケート調査報告書について」 3. 報告事項 「川西市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画策定支援業務委託について」 4. 報告事項 「川西市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画のスケジュールについて」 5. その他 6. 閉会		
会議結果		別紙審議経過のとおり		

審議経過

1. 開会

○委員の出席確認

委員 16 名の内、本日 13 名が出席している。よって川西市介護保険運営協議会規則第 3 条第 4 項の規定に基づき、本日の協議会は成立している。

また、傍聴人は 1 名来られていることを確認する。

○根津健康福祉部長挨拶

本年度は、国では法律改正が行われており、介護保険に関しても三年に一度の介護保険事業計画の策定や、それに伴い介護保険料の見直しにあたっている年である。

委員の皆様には、様々な角度から率直に議論いただき、計画や保険料をまとめていきたいと考えている。

○異動者の自己紹介

平成 29 年 4 月より事務局にて異動があった、山本室長、井口課長、野本課員が自己紹介をおこなう。

○資料の確認

事前配布している以下の書類の確認をおこなう。

- ①平成 29 年度第 1 回川西市介護保険運営協議会次第 (A4 1 枚)
- ②川西市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画アンケート調査結果報告書 (90 ページ)
- ③介護予防・日常生活圏域ニーズ調査に基づく要介護リスク等について (6 ページ)
- ④平成 29 年度川西市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画予定表
- ⑤(参考)川西市高齢者保健福祉計画・第 6 期介護保険事業計画の策定経過

2. 報告事項

「川西市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画アンケート調査報告書について」

○事務局説明

今回のアンケート調査の集計、分析をおこなった、ジャパンインターナショナル総合研究所から「②川西市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画アンケート調査結果報告書 (90 ページ)」、「③介護予防・日常生活圏域ニーズ調査に基づく要介護リスク等について (6 ページ)」により説明をおこなう。

3. 報告事項

「川西市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画策定支援業務委託について」

○事務局説明

先ほどのアンケート結果を受けて、平成 30 年からスタートする第 7 期の計画策定の業務

委託に関して、先日公募型プロポーザルをおこなった。4月28日に公募を開始し、5月30日にプレゼンテーションとヒアリングを実施した結果、ジャパンインターナショナル総合研究所に業務委託を選定することが決定した。したがってアンケートに引き続き、計画策定の支援をお願いすることになった。ただし、結果発表は6月5日であることから、公表は6月5日以降となる。

4. 報告事項

「川西市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画のスケジュールについて」

○事務局説明

事務局から別紙資料「④平成29年度川西市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画予定表」、「⑤(参考)川西市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画の策定経過」により説明をおこなう。

○本日の議事への質疑応答

問) 先ほどのアンケートの報告から、久代や川西中学校区は、困っている方が多いという印象を受けた。それが経済的に困っているのか、身体的に困っているのかが気になる。それぞれの年齢層において所得の格差等の情報も集計できているか。

答) 所得の情報までは、今回の調査では把握はできていない。しかし、主観的な暮らし向きの感じ方や、住まいについて持家なのか、賃貸なのかという今回の調査で、恐らく所得の格差も反映された答えが返ってきているのではないかと考えている。

また、国の調査においては、要介護の認定率と経済情報との比較もされており、一般的には所得の高い層ほど、認定率は低くなる傾向があるという報告がされている。そのような状況を考えると、久代や川西中学校区は、複合的に課題を抱えている方が比較的多い地域であることが考えられる。

問) 川西市は高齢化率は高いのに、なぜ認定率が低いのかという疑問に対して、前期高齢者が多いからであるとの報告があった。しかし、10年後は、その方たちが後期高齢者に移行することで認定率が急激に上がり、保険料も大幅に上昇するのではないかという予想から、将来の見通しはかなり悪い状況と考えているか。または、現在と同じように保険料も安く、元気な高齢者も多く安泰とみているか。

答) 年齢構成の要因だけで推測すると、間違いなく、悪くなると考えている。一般的な傾向では、年齢が上がれば上がるほど認定率は上昇する。

今の川西市の人口構成は、60代後半から70代前半までの前期高齢者が非常に多く、その後続く層はそれほど多くない。そのような状況の中で10年後を想定すると、認定率は間違いなく上がる。そうすると介護保険の給付費も当然上がってくる。

一方で、介護保険料を払う65歳以上の人口はそれほど増えないと考えられる。当社の試

算では、平成 27 年と、平成 32 年を比較すると 65 歳以上の人口は 5%ほどしか増えず、認定者の割合は 25%程度増加すると考えている。よって、保険料を 2 割増しにしなければ介護保険制度を持続できない状況に陥る。さらに平成 37 年になると、より認定率も上がるということが予測される。

ただし、平成 30 年から平成 32 年の第 7 期については、団塊の世代が後期高齢者に完全には移行しきらないので、それほど認定率は上がらないだろうと考えられる。

しかし、第 8 期、第 9 期を見通せば、間違いなく大幅に認定率も上がるのではないかと推測している。

問) 前期高齢者が元気で生き続けられれば、後期高齢者になっても認定を受ける時期が後ろ倒しにできるのではないだろうか。ずっと元気で、介護に至らないような、健康維持の施策を行政にはおこなっていただきたい。

答) 平成 22 年時点の統計になるが、川西市の平均寿命は、男性で 81.2 歳、女性で 87 歳である。現在川西市に多い前期高齢者が約 12 年後くらいには、男性の平均寿命に到達する。そうすると、配偶者の介護が無い単身の世帯が増えることで、認定率が上がるということが予想される。

これは避けられないことであるので、健康寿命をいかに伸ばしてくかということが重要である。現在、各地域包括でおこなっている、いきいき元気クラブや、認知症予防、また、きんたくん健康体操の一つである、転倒予防いきいき百歳体操編も今年から各地域で自主的におこなっていただけるような形づくりを進めている。現在 DVD を作成しており、配布した後、最初の数回は市と一緒に体操をおこなうが、その後、地域だけで自主的に取り組んでいただくことを想定している。

また、健幸政策室がおこなっている健幸マイレージや、別の角度から、特定健診等の定期受診も推進していきたい。

このように、介護保険だけではなく健康という面の切り口から、色々な政策を進めていきたいと考えている。

問) 報告事項 3 にて、委託業者がジャパンインターナショナル総合研究所に決まったとのことだが、アンケート調査以外に、具体的にどういったことを委託するのか。

答) アンケート結果等を分析しながら、第 7 期の計画づくりをする上での全体的なお手伝いをしていただくことが委託の主な部分である。

○本日の議事への意見、提案

- ・今後、後期高齢者が増え認定率が上昇していく中で、単に保険料を上げるだけではなく、みこしを担ぐ前期高齢者や元気な高齢者を増やしていけたらと考えている。また、比較的経済力のある方に、少しでも多く川西市に来てもらう施策もおこなってきたい。

- ・調査結果から、現在の川西市では夫婦世帯の老老介護が多いという現状に、非常に考えさせられた。

- ・健康長寿ということを政策のターゲットにして、体操や食生活等の面から、健康に長生きできる施策が必要である。
- ・健康と、福祉や長寿が一体な社会になるように、出来る限り地域に自主性を持っていただきたい。川西市といえば健康福祉社会、というようなイメージを連想できるように進めていくのも一つの方針であると考えている。
- ・在宅介護実態調査から、介護保険のサービスを利用している方で、他の支援サービスを利用している方が非常に少ないという報告があった。地域の助け合いやボランティアなどを使わずに、介護保険に頼りきりになっている方を、地域全体で支えていけたらと思っている。
- ・アンケート結果にあるように、移動や外出に関して困っている方が多いことから、市全体で広い視点に立った上で、計画や施策を考えていく必要があると感じる。
- ・このアンケート結果は、現状が如実に表れていると感じた。介護の現場に携わっていると、経済力がなければ介護保険も使えないという現実を目の当たりにすることが多い。一部負担金が重荷になる方もおり、その部分も賄えない人もいる。介護保険に関する様々なことが制度化されているとはいえ、深刻な事態に陥っていることを改めて感じた。

5. その他

議題なし。

6. 閉会

以上